7 大山道・まほろば・岡津道コース（約 7.5km）

～ 桂坂・岡津・緑園　往事の古道と新しい街並みの調和 ～

相鉄いずみ野線弥生台駅から「大山道」道標の前を通り、住宅街を抜けていくと中川地区センターに出ます。そばの桂坂公園から不動橋までの「柏尾通り大山道」沿いは、土地の人々が男坂・女坂と呼んでいた坂の入口にあった「大山道」道標や、「大山道」・「ほしのや道」の道標になっていた不動像などがあり、往時の「大山道」の面影をもっとも残すところです。不動橋の手前を阿久和方面へ行くと、中央に円形の橋がある「集いのまほろば」があり、川辺の散策に最適です。県道瀬谷柏尾線を横切ると、区内で唯一原型を留めている富士塚があります。県道瀬谷柏尾線に戻り、しばらく行くと「岡津道」に出ます。道沿いには有名なしだれ桜のある西林寺があり、さらに中田・さちが丘線に沿い区境を歩くと普光寺があります。阿久和川を渡ると、三嶋神社に出ます。ここから子易川沿いの道に出て、北上するとそこは緑園です。

❶ 西が岡公園

公園内には、桜やブナ科の樹木などがたくさん植えられています。春にはお花見が、秋には紅葉が楽しめます。また、ブランコ、すべり台などの遊具や砂場もあって、地域の憩いの広場となっています。隣接してグランドを備えており、西が岡地区最大の公園です。近くには、中川地区センターがあります。

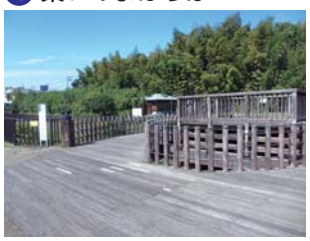
❷ 永明寺（ようめいじ）

曹洞宗大本山総持寺の孫末寺（まごまつじ）で、本尊として聖観世音菩薩木立像を安置しています。古文書等によれば、天文 11 年（1542）「岡津郷領主太田越前守入道宗真（そうしん）」の創立とあります。大正 12 年（1923）の関東大震災の時、裏山と堂宇が崩壊し、現別院の地に移転しましたが、周囲の開発と阿久和川の氾濫（はんらん）の影響もあり、平成 2 年に旧跡地山上に大本堂が落成しました。

❸ 大山道・ほしのや道道標

「柏尾通り大山道」を歩く人が必ず足を止めるのが永明寺別院門前にある「大山道道標」です。この道標は不動橋の南西の袂にあったものを移転したものです。ここから 250 mほど西へ行くと、左側に双体道祖神と道標を兼ねた地神塔（じじんとう）があります。地神塔の台座には、「上り　大山道、下り　かしを道」と記された珍しいものです。

❹ 集いのまほろば

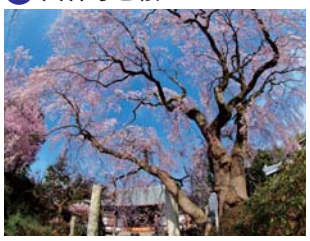


「集いのまほろば」は、阿久和川の水辺拠点として、すべての人にやさしい川づくりをテーマに整備されています。中央部には「集いの橋」と名付けられた、立体的に櫓を組んだ円形の木製の橋があります。不動橋から新明神橋までの間に、5 つの「まほろば」があり、川沿いには歩道があり、 せせらぎの音を聞きながら川辺を散歩するのに最適です。

❺ 富士塚・向導寺

富士塚は富士講の人々が、富士山の遥拝所（ようはいじょ）として、また信仰の対象として富士山をかたどった山です。塚の上には 4 基の富士講碑が立っています。富士塚の前には不動堂と琴平神社があります。不動堂は明治初期まで大山詣での人々で賑わったと言われています。隣には浄土宗の向導寺があり、木造阿弥陀如来坐像が安置され、平安時代後期の本格的定朝の作風がみられる貴重なものです。（非公開）

❻ 西林寺（さいりんじ）と桜



岡津消防出張所の斜め前に「しだれ桜」で有名な西林寺があります。長禄 4 年（1460）に新橋町の中丸氏から出た団誉閑悦（だんよかんえつ）上人を開山として開かれた浄土宗の寺で、正しくは亀鶴山（きかくさん）一心院西林寺といいます。本尊は阿弥陀如来坐像を安置しています。境内には「しだれ桜」の他にも、樹齢 550 年以上といわれる黒松があります。

❼ 原田由右衛門（よし(う)えもん）顕彰碑

西林寺境内に「朴翁居士之碑（ぼくおうこじのひ）」と刻まれた寺子屋師匠原田由右衛門の碑があります。師の恩に報いるために門人たちが建てたものです。由右衛門は岡津の自宅で寺子屋を開きました。区内で寺子屋を開いた人に、上飯田の本興寺住職、和泉の長福寺住職、中田の小山三郎兵衛、岡津の吉田雄山（ゆうざん）、西林寺住職栄隆（えいりゅう）などがいます。

❽ 普光寺（ふこうじ）・天神社（てんじんしゃ）

この寺は光応山東光院（こうおうさんとうこういん）普光寺といい、宗旨は高野山真言宗、本尊は玉眼、彩色の聖観音像を安置しています。本堂は平成 3 年の建築、本堂の内陣には弘法大師の一生を描いた欄間（らんま）があり、境内には歓喜天（かんきてん）堂や四国八十八カ所の砂が敷き詰められた砂踏霊場があります。寺入口右の盛土の上に天神社が祀られ、その境内に原田由右衛門門人建立の「筆塚（ふでつか）」があります。

❾ 三嶋神社

岡津全域の鎮守さまで、天文 5 年（1536）に創建と伝えられ、祭神は大山祇命（おおやまつみのみこと）です。天正 18 年（1590）に今の岡津小学校地に陣屋を築いた代官頭の彦坂小刑部（こぎょうぶ）元正をはじめ、その後の岡津村の領主は守護神として三嶋神社を信仰しました。昭和 47 年（1972）まで神社の参道は県道から鳥居まで真っ直ぐで、岡津小学校は神社の参道を校庭として借りていました。

8 村岡川（宇田川）源流・石巻康敬コース（約 5.2km）

～ 中田北・東　治世、文化の後を街並みにたどって ～

市営地下鉄立場駅前の交差点に庚申塔があります。これは、戸塚・踊場・中田を経て、和泉で「柏尾通り大山道」に合流する「大山道」の道標です。ここから野球場のある中田中央公園を経て、村岡川（宇田川）の源流になっている弁天池がある御霊神社へと向かいます。泉の森ふれあい樹林を経て、中田町宮ノ前公園から江戸期の中田村領主石巻康敬の墓を通り、石巻氏建立の中田寺前に出ます。寺の境内には力士戸田川の墓などがあります。ここから中田ふれあいの樹林を経て市営地下鉄中田駅へ至る道は、石巻氏治世と文化の後を見ながら街並みの中を歩く散歩道です。

❶ 立場交差点庚申塔

この庚申塔が最初に祀られた場所は、中田北一丁目 1 番 9 号辺りで、その頃の長後街道とかまくらみちの交差点でした。大正 3 年（1914）に新しい長後街道の開通に伴い、庚申塔も移されましたが、その後、長後街道拡幅等で奉斎場所が消失し、また別の場所に移されました。平成 11 年、立場交差点の完成を機に、現在の場所に祀られました。

❷ 中田中央公園

平成 13 年 5 月に区内 3 ヶ所目の地区公園として開園しました。区内では初めての本格的な野球場とレストハウス・駐車場があるとても広い公園です。公園内には雑木林や小川もあります。富士山がよく見える所もあるので、周辺を散歩するのもおすすめです。

❸ 御霊神社

祭神は鎌倉権五郎景政と日本武尊の二柱で、旧鎌倉郡内に多くある御霊神社の一つです。拝殿右横の小さな瓦葺きの建物は、昭和 20 年（1945）の終戦まで中和田小学校の奉安殿だった建物で、木造の学校建築物としては区内最古のものです。境内には古式消防器具保存庫、宮本湊先生の徳をたたえた頌徳碑、村岡川（宇田川）源流の弁天池があります。

❹ 寛文庚申塔

弁天池前の手水舎横に、横浜市の指定有形文化財に指定された寛文 6 年（1666）建立の角柱笠塔婆型の庚申塔があります。庚申信仰は江戸時代に多くの庶民の信仰を集めました。この庚申塔は庚申信仰が青面金剛の信仰と結びつく以前の、比較的早い時期のもので、南無阿弥陀仏の六字名号が庚申信仰と結びついたことを、三猿の存在が示しています。

❺ 泉の森ふれあい樹林

この泉の森ふれあい樹林は、針葉樹が主ですが、常緑樹・落葉樹もある混合林です。コジュケイ・メジロ・ヒヨドリ・ムクドリなどの野鳥が多く見られます。樹林は、地元の愛護会の方々により管理されていて、周囲には花も植えられています。近くには、泉寿荘・泉スポーツセンターなどがあります。

❻ 庚申塔

中田町宮ノ前公園の南端、東中田小学校入口の信号柱の傍らに 2 基の庚申塔が立っています。大きい方が元禄 15 年（1702）2 月、小さい方は安政 7 年（1860）2 月の建立で、南ふじ沢道、北八王子道と刻まれて、道標もかねています。

❼ 石巻康敬の墓

江戸初期に中田村の領主になった石巻康敬の家は、戦国時代に小田原北条氏の評定衆や相模西部の郡代を勤めた家で、本国は愛知県姫街道沿いの、石巻山を越える本坂峠を下った辺りです。康敬は中田の石巻館で 23 年間を過ごし村の発展に力をそそぎました。慶長 18 年（1613）10 月 1 日 80 歳で逝去、持仏の観音堂（稲葉堂）の地であったこの地に眠っています。

❽ 中田寺

江戸期に中田村の領主であった石巻康敬が開基となり、慶長 17 年（1612）に本誉良廓上人が創建した、本尊阿弥陀如来像を置く浄土宗の寺です。境内には石巻康敬の持仏堂であった十一面観音を置く稲葉堂や、「南無阿弥陀仏」と刻まれた十七世住職香川法隆上人の頌徳碑、当地小島家出身の中田寺二世辨良上人の墓や力士戸田川の墓があります。

❾ 力士戸田川の墓

戸田川鷲之助は享保 20 年（1735）に中田の小山家で生まれました。江戸角界の名門 2 代目玉垣の弟子として入門し、宝暦 6 年（1756）5 月の上方番付では戸田川鷲之助の四股名で小結、翌年の京都興行では関脇に、やがて玉垣親方となり、角界第一人者が名乗る 3 代目雷権太夫を襲名、将軍家上覧相撲を実現させ、相撲の黄金時代を築いた人です。

❿ 中田ふれあいの樹林

横浜市で 2 番目に開園した「ふれあいの樹林」で西向きの緩傾斜地にあります。0.8 ha と小規模ですが、日当たりが良いので、冬でも小春日和の日には散策に良い所です。ベンチもあるので休憩場所として、また、散策の途中で立ち寄る場所としても最適です。

⓫ しらゆり公園

中田駅から近く、区内でも大きな公園の一つです。公園で食事をする親子連れもたくさんいます。夏はプールもあるので、夏休みに入ると大勢の子供達で賑わっています。公園の遊具の種類も豊富に揃っています。春には、桜の名所としても知られています。

7　大山道・まほろば・岡津道コース

地図 ━━ のルート

～桂坂・岡津・緑園　往事の古道と新しい街並みの調和～

スタート
弥生台駅 ー ❶西が岡公園ー中川地区センターー
❷永明寺ー ❸大山道・ほしのや道道標ー
❹集いのまほろばー ❺富士塚・向導寺ー ❻西林寺ー
❼原田由右衛門顕彰碑ー ❽普光寺・天神社ー
❾三嶋神社ー 緑園都市駅
ゴール

領家（7コース）

むかし、岡津に城のあったころのこと、岡津の城主の夫人が出産することになりました。いよいよ出産というとき、暗くなってしまったので困っていると、ふいに現れた龍が口から火を吹きだし、あたりをパッと明るくしました。おかげでお産が無事に済んだので、夫人は胞衣を埋めて塚にしました。一説には、お産や月の忌みを花ということから、この付近を龍花と書いて「りゅうけ」と呼ぶようになりましたが、いつごろからか「領家」と書くようになったのだということです。

ー「ふるさと泉再発見　私たちの泉区」ー

島田の塚（7コース）

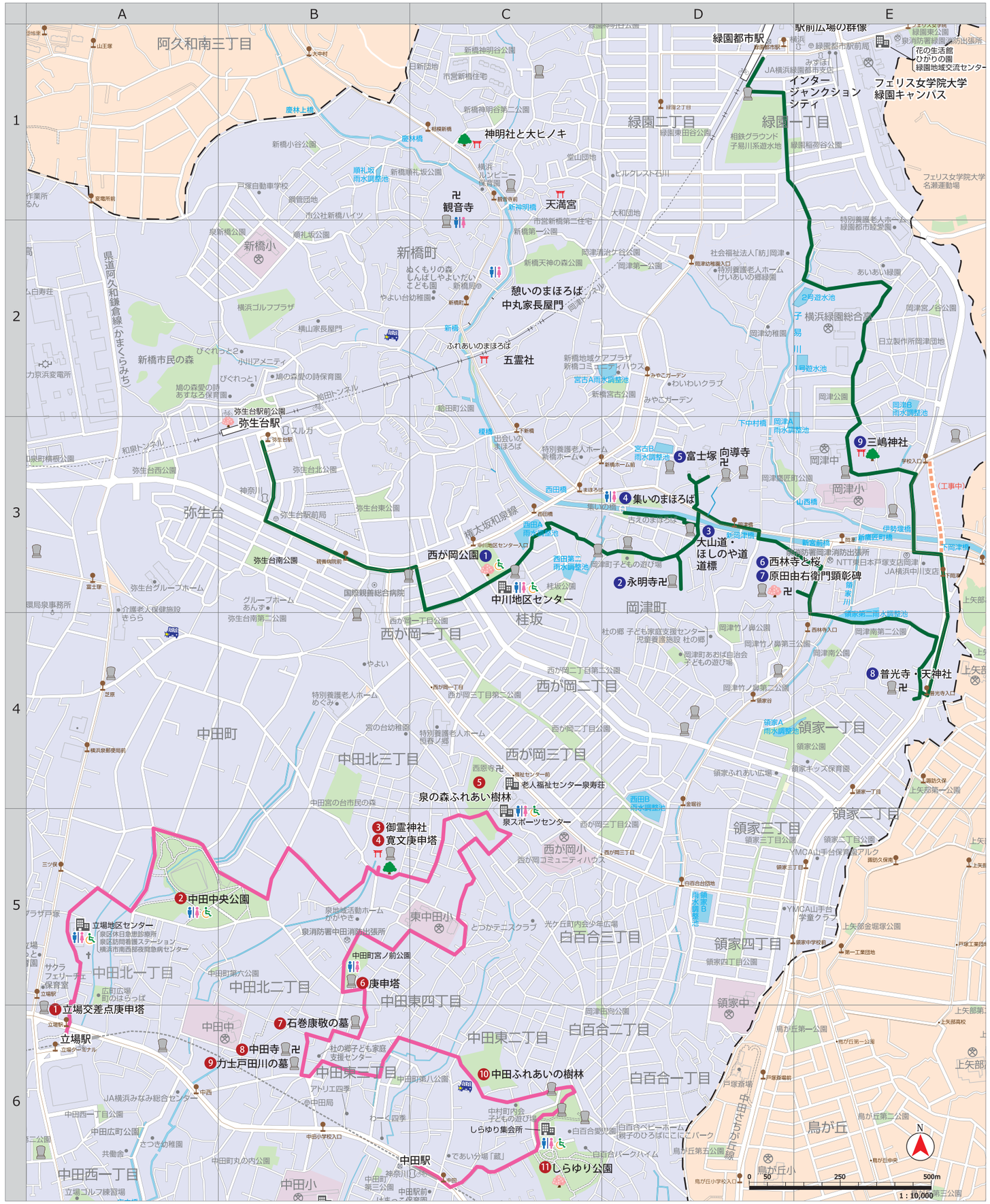
むかし、鎌倉時代の領家に、九州出身の島田三郎という武士が住んでいました。ある時幕府は、蒙古軍からの防備のために、三郎を九州にもどす事にしました。三郎は、妊娠していた夫人の丹後局に守り刀と銅の鏡を授けて「生まれたのが男の子なら守り刀を、女の子ならば鏡を携えて来るように」と言って別れました。やがて、無事に男の子が生まれたので、局は守り刀を持って帰国しました。その時、鏡を三嶋神社に納め、胞衣を屋敷に埋めました。その場所を「島田の塚」といい、明治の頃までは水田の中に島のようになっていたということです。

ー中川郷土誌「ゆかりの里」ー

岡津橋（7コース）

むかし、阿久和川は幅がとても広くて橋もなかったので、人々は舟で川を渡っていました。ある日、一人の旅の僧が子易の方から来て川を渡ろうとしましたが、舟は向こう岸にあって人影もなく、渡れずに困っていました。その時、美しい娘が現れて「どうしたのですか」と尋ねました。僧が「川を渡りたいが橋もなく、舟もなくて困っているのです」と言うと、娘はたちまち蛇になり、向こう岸に泳ぎ着くと見る間に小さな橋となり、僧を無事に向こう岸に渡しました。それから蛇は三嶋神社の方に消え去り、僧は西林寺に住んだということです。

ー中川郷土誌「ゆかりの里」ー



8　村岡川（宇田川）源流・石巻康敬コース

地図 ━━ のルート

～ 中田北・東　治世、文化の後を街並みにたどって ～

スタート
立場駅 ー ❶立場交差点庚申塔 ー 立場地区センター ー
❷中田中央公園 ー ❸御霊神社 ー ❹寛文庚申塔 ー
❺泉の森ふれあい樹林 ー 中田町宮ノ前公園 ー
❻庚申塔 ー ❼石巻康敬の墓 ー ❽中田寺 ー
❾力士戸田川の墓 ー ❿ 中田ふれあいの樹林 ー
⓫ しらゆり公園 ー 中田駅
ゴール

腰抜け坂（7コース）

むかし、普光寺裏の山から北に向かって下る坂（岡津道）を腰抜け坂と呼んでいました。江戸初期、岡津村の鷹匠町に代官頭彦坂小刑部元正の陣屋があり、その近くに刑場があったといわれています。罪を負って岡津の陣屋に連れてこられた罪人は、陣屋が見える坂までくると、やがて首を切られるのを恐れて腰を抜かし、歩けなくなってしまったのです。このことから「腰抜け坂」と呼ばれたということです。しかし実際は、急坂のため荷物の運搬に苦労したので、そこから「腰抜け坂」の名が出たのではないかという説もあります。

ー「いずみいまむかし」ほかー

力士戸田川の話（8コース）

＜その１＞

大山詣での際、お百度参りの心願をかけた戸田川は、毎日、中田の生家から稲の束を持ってお参りに行き、途中にある戸田の渡しの清流で洗ったものを大山の神前に供え、十束、二十束とたまるごとにそれを差し上げて力をつけ、ついに百日目、百束の稲束を高々と上げて大願成就したということです。

＜その２＞

上方の相撲で彼の地の名だたる大きな力士と取り組んだ時、相手は一笑して戸田川を頭上高く差し上げ、「どうだ小童、関東が見えたか」と、今にも投げ出そうとした時、戸田川はとっさに相手の髻をくわえると、首の自由を失った相手は、戸田川が落ちる前に両手を付き、負けとなりました。場内騒然とした中で戸田川は「これは関東の髻くわえだ」と悠々と引き揚げました。しかし珍手に負けた上方力士は収まらず、すぐ追手を差し向けました。戸田川は裏街道を通って野宿を重ねて、やっとのことで関東へ引き揚げたということです。

＜その３＞

生家の父親が屋敷の大木の陰で風呂に入っていた時、突然雷が鳴り大雨が降ってきたので、戸田川は父親を風呂桶に入れたまま家の中の土間に運びました。そのとたん、屋敷の大木に雷が落ちました。父親は息子戸田川の怪力のため災難を免れたということです。　　ー「いずみいまむかし」ー